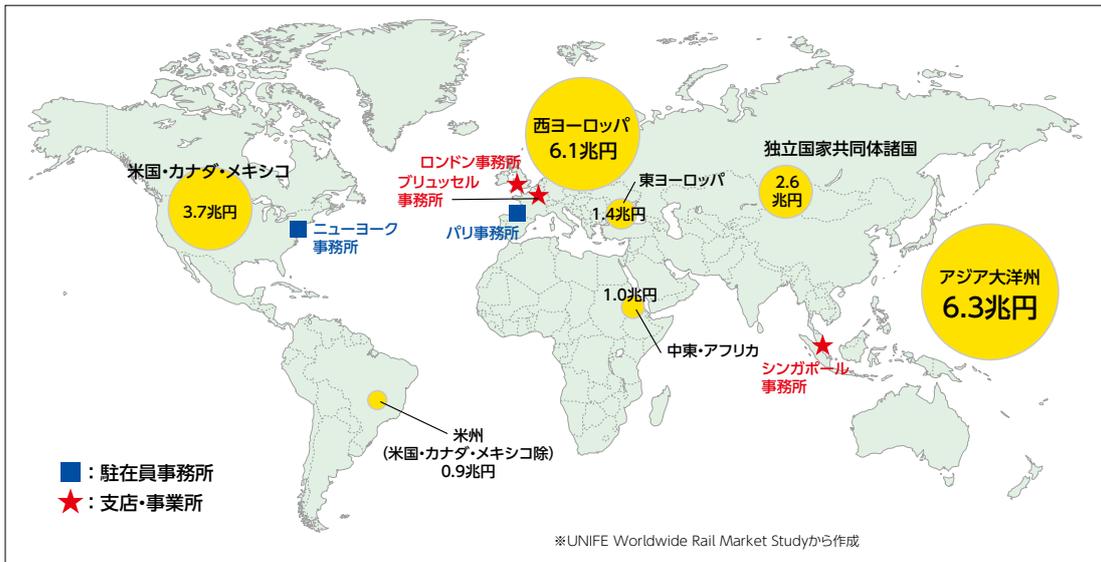


特集Ⅳ 海外プロジェクトへの挑戦

世界の鉄道発展に向けて

JR東日本グループでは、「グループ経営構想V」に基づき、新たな事業領域の挑戦を続けております。海外における海外鉄道マーケットの拡大が見込まれる中、国内外の企業と連携し、海外の鉄道事業プロジェクトに積極的に参画し、グループの成長をめざして参ります。これらの海外鉄道事業プロジェクトにおける情報収集などを目的として、ニューヨーク、パリ、ブリュッセル、シンガポール、ロンドンの計5箇所に海外事務所を設置しています。なお、今後の海外の鉄道マーケットは2.5%(年平均)の成長が見込まれ、2020年には、22兆円規模に達すると予測されています。



海外事務所所在地

海外鉄道事業者への支援

海外鉄道事業への貢献と事業領域の拡大を目的として、海外鉄道事業者への支援を行っています。2013年より、埼京線や横浜線で使用してきた205系の車両計356両を、インドネシア共和国のジャカルタ首都圏鉄道会社(PT KAI Commuter Jabodetabek)[※]に譲渡してきました。また2015年4月からは、南武線で使用してきた205系車両120両の譲渡を開始しています。それに加えて、当社技術者を派遣して譲渡した車両のメンテナンスに関する支援を行ったほか、乗務員(運転士)による車両の点検・整備に関する支援を実施しました。また、ミャンマー連邦共和国においては、これまでも気動車を譲渡してまいりましたが、2015年7月より新たに東北地区、新潟地区で使用してきた気動車19両(キハ40形、キハ48形)をミャンマー鉄道公社(Maynma Railways)へ譲渡するとともに、現地に当社社員を派遣して、車両の保守に関する技術支援を実施してまいります。今後も技術支援の深度化等、さらなる協力を進めてまいります。

[※]ジャカルタ首都圏鉄道会社(PT KAI Commuter Jabodetabek) インドネシアの首都ジャカルタ近郊において都市鉄道の運行を行う鉄道会社



インドネシアに譲渡した南武線205系



乗務員による技術支援の様子(インドネシア)

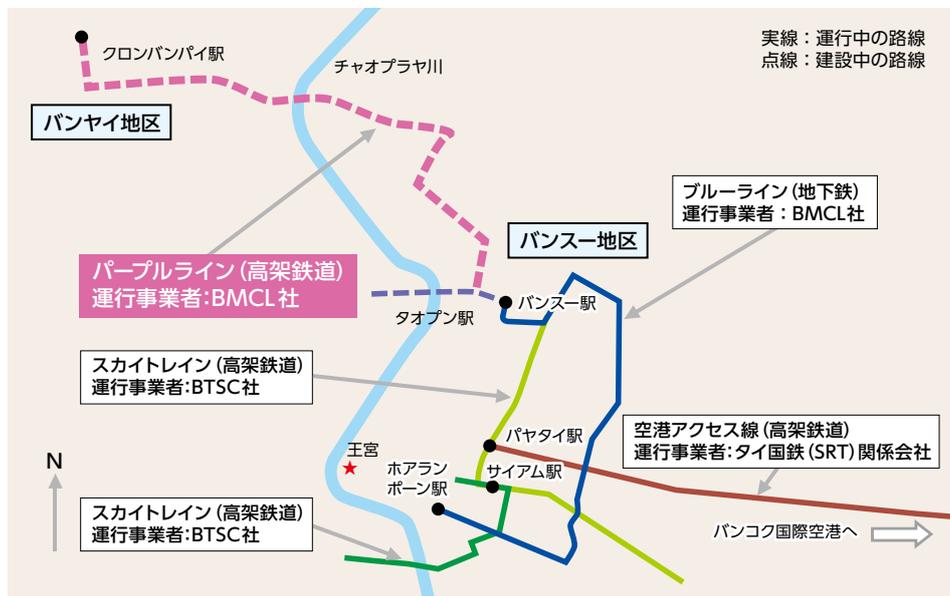


ミャンマーに譲渡した気動車車両

海外鉄道事業の展開

海外に向けて鉄道車両を提供するとともに、オペレーション&メンテナンス分野を含めた海外鉄道プロジェクトへの参画を進めています。現在、タイ王国バンコクで建設中の都市鉄道路線であるパープルライン[※]において、丸紅株式会社、株式会社東芝とともに、鉄道車両や各種地上設備についてトータルでメンテナンスを行う事業会社(Japan Transportation Technology (Thailand) Co., Ltd)を2013年12月に設立し、プロジェクトを進めています。車両については、JR東日本グループの株式会社総合車両製作所が3両編成のステンレス製車両21編成(63両)を供給します。このプロジェクトは、バンコクの都市交通に日本製の鉄道車両が初めて採用され、また日本の鉄道事業者を含めた企業連合が海外での鉄道メンテナンス事業に参画する初めてのケースです。営業開始は、2016年の予定です。

※パープルライン タイの首都バンコク北部バンスー地区と北西郊外のバンヤイ地区(約23km・16駅)を結ぶ計画の鉄道路線。運営主体はタイの鉄道事業者であるバンコクメトロ社(Bangkok Metro Public Company Limited)



バンコク都市鉄道 路線略図



パープルライン向け車両(イメージ)